

《舞踊集団菊の会 プロフィール》

- 1972年 尾上菊乃里こと故畑道代（六代目尾上菊五郎の創流した尾上流で、二代目家元初代尾上菊之丞に薫陶を受けた。）によって設立。
- 1976年 文化庁芸術祭において優秀賞受賞。（「カッチャ行かねかこの道を」）
これまで民俗芸能をモチーフにした舞踊劇を数多く創作。
（「藍の女」「にほん大通り」「阿国かぶき」「追分の女」他）
- 1986年 外務大臣より表彰を受ける。（この前年、中近東5ヶ国に派遣）
※（現在までに世界延べ66ヶ国 108都市で外務省事業・文化庁事業等での海外公演を行っています。）
- 1988年 黒澤明監督の作品映画「夢」の振付を畑道代が担当、団員が出演。
- 1993年 第14回松尾芸能賞舞踊特別賞受賞。
- 1997年 東京新聞社主催の全国舞踊コンクール邦楽部門で10年に亘り上位（1位2位3位）入賞。（平成9.10.11.12.13.14.15.16.17.19.30年度 令和元年.3.4年度）
- 2014年 小泉堯史監督作品「蝸ノ記」の振付を畑聡が担当、団員が出演。
- 2016年 ペルー共和国に菊の会舞踊教室を開校。
（国内でも首都圏・京都の23教室で舞踊教室を続けている）
- 2022年 小泉堯史監督の映画「峠・最後のサムライ」で畑聡が舞踊指導を担当、団員が出演。



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

民俗芸能の魅力発見

みて・きいて・おどつて感じる
ニッポンのおどり



令和4年度

文化芸術による子供育成推進事業
一巡回公演事業一

♪ 知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～♪

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



Japanese Dance
Tradition and Creativity

The
KIKUNOKAI

ぶようしゅうだん きく かい

舞踊集団 菊の会

〒161-0031

東京都新宿区西落合 2-21-23

TEL 03-5983-6001 FAX 03-5983-6002

ホームページ: <http://www.kikunokai.co.jp>

E-mail: info@kikunokai.co.jp

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

ぶようしゅうだん きく かい
舞踊集団 菊の会

民俗芸能の魅力発見

みて・きいて・おどって感じる ニッポンのおどり

生演奏による臨場感に加えて、演目ごとの特色あるリズム感、情緒感、趣の異なる扮装や 手にする道具等、視覚・聴覚に直接訴える迫力と 古来から受け継がれ、込められてきた「願い」「思い」そして「祈り」を間近で体感してもらいます。日本各地の民俗芸能に触れることにより、自分たちの地元の民俗芸能にも興味を持つ良いきっかけになることを願い、選曲しました。



「さなぶり荒馬」(青森県)

田植え後に、豊作を祈願して奉納した口承芸能。
馬の他、獅子や猿も登場して賑やかな囃子で、客席
後方から生徒の中を通して舞台まで楽しく入場します。

「鹿 躍」(岩手県)

長いササを背負い、腰に付けた太鼓を激しく打ち
鳴らし念仏調の踊り唄を自ら唄いながら勇壮に舞う
ダイナミックな芸能です。



「百姓おどり」(岩手県)

五穀豊穡を祈願し奉納されてきた踊りで、一年間の
お米作りの中で鍬や鎌を使って伝統的な農作業の
様子をコミカルに踊ります。

ワークショップⅡ

〔お米づくりをみてみよう〕



ワークショップⅢ

〔小道具をみてみよう〕

「飾山囃子」(秋田県)

飾山という人形などを飾った山車の上で演じられてきた芸能で、
秋田の祭礼に娘たちが華やかに踊ります。



「鬼剣舞“二人加護”」(岩手県)

鬼面(仏の化身)を付け、刀と扇子を扱いながら勇壮に踊ります。鬼剣舞の
数ある演目の中でも“一番庭”“八人加護”と共に剣舞を代表する演目です。



「銭太鼓」(島根県)

かつては竹の筒の中に古銭を入れて、両端にふさを付けた
リズム楽器の銭太鼓を打ち振って“隠岐相撲取節”にのせて
リズムカルに踊ります。



「傘おどり」(鳥取県)

昔、雨乞いの為に踊られたのが始まりとされるこの踊りは、鈴と
色紙で飾った傘を廻しつつ、元唄“貝殻節”にのせて踊ります。



「ソーラン節」(北海道)

杵網の中に入ったニシンをすくいあげるおり、沖揚げ作業の仕事唄として
歌われてきたものです。体験していただいた踊りがどのように舞台上で演じ
られるのか楽しみながら見ていただきます。



ワークショップⅣ

〔日本の楽器の音色を体験〕

ワークショップⅤ

〔民謡を踊ろう〕(八木節)

「八木節」(群馬県)

菅笠、唐傘等を扱いながら活気のある囃子と唄で明るく
賑やかに踊ります。

